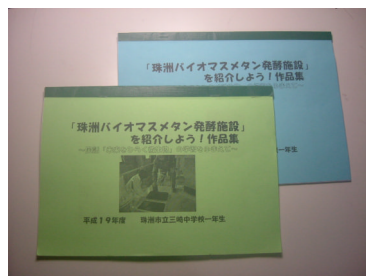




C-4 文集抜粋



①「どのように環境にいか小学5年生に説明する」

Eさん

みなさんは、熊谷に珠洲市浄化センター「バイオマスメタン発酵施設」があることを知っていますか。

その施設は、日本で有数の最先端の施設です。その特徴は、五種類のバイオマスを一度に処理することができるということです。

バイオマスとは、生物資源の集まりのことです。例えば、日常生活で汚れた水をきれいにすることで発生する汚れた泥や、各家庭の浄化槽にたまった汚れた泥、排泄物や、学校、スーパーなどから出る生ゴミなどのことを指します。

このバイオマスを発酵させると、メタンガスが出てきて、そのガスを使い、残ったカスをかわかすと肥料になります。その肥料は、近所の農家の人に、無料配布しています。さらに、その肥料で、また野菜を育てることができるのです。その野菜の残りが生ゴミになり、この施設で、発酵させることでまた肥料に戻るという循環が成り立つのです。

このように、この施設は環境に配慮している、とてもすばらしい施設なのです。だから是非皆さんも一度見学に行つてはどうですか。

①「どのように環境にいか、小学校5年生に説明する」

Fさん

みなさんは、珠洲市に環境に良い施設があることを知っていますか。きっと知らない人が多いでしょう。この施設は、意外にも私達の住んでいる所の近く、熊谷町にあるもので、「珠洲市浄化センター バイオマスメタン発酵施設」といいます。

この施設には、去年の八月から十二月の間に、県内外からの見学者が六五〇人も訪れたそうです。このことから、施設はとても優れていて有名なんだということがわかりますね。それでは、今から、この施設のことを知っていきましょう。

まずは、バイオマスについてです。ただ「バイオマス」と聞いただけでは、何の事か分からないかと思いますが、バイオマスとは、生物資源の集まりという意味で、簡単にいうと、生ゴミや下水にたまった汚れた泥などのことです。このバイオマスは、施設の中でいろんな機械に通されます。そして、最終的には肥料となり、市民へと配られます。

次は、施設についてです。今までは、生ゴミや下水汚泥の量がたくさんあって、処分するのに高いお金がかかっていました。それで、そのお金を少しでも減らすために、この施設が建てられたのです。実際に処分にかかるお金は、年間で六五〇〇万円も減ったのだそうです。

さて、この施設は環境に良いと言いましたが、どのように環境に良いのでしょうか。

まず、集められた生ゴミなどは機械によって徐々に姿を変えていき、最終的には、肥料になります。そして、畑に使われます。やがて、おいしい野菜ができて食卓に並びます。その時に出た生ゴミなどがまた施設へと運ばれ、肥料にかわり、畑に使われて、また食事にならび・・・と、どんどんまわっているのです。この事を「循環している」と言います。

次は、肥料についてです。さっきから何度も肥料の話は出ていますが、名前は「ためごろう」です。この肥料は一日に約三〇〇キログラムできます。これは無料で市民に配られています。でも、四月分まで予約が入っているのだそうです。皆さんも、家の人に言つて使つてみてください。

この施設のすばらしさを知った皆さんも、環境のことを考えて、日々を送ってください。例えば、ゴミなどは、ちゃんと分別して出すとか、道にゴミを捨てないなどして、珠洲の環境を良くしていきましょう。

これからの未来、きっと県外でもこのような施設がたくさん建つていくと思います。だから、私達も環境に対する考え方を少し変えて、自分達でできることをして、日本全国の人が環境について考えていけるような社会へと、変えていきたいですね。